

平成25年度みえの現場・すこいやんかトーク テーマ編 (地域医療)の概要 名張市立病院

1月11日(土)に名張市でみえの現場・すこいやんかトーク テーマ編(地域医療)を開催しました。

当日は、「名張市立病院に勤務する医療関係者」の皆さん8名にお集まりいただき、皆さんと知事が「地域医療」「ワーク・ライフ・バランス～それぞれの職種での生活面の課題～」についてトークを行いました。

また、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

【名張市立病院の概要を伊藤院長より説明】

- 名張市立病院は平成9年4月21日に200床の病院として開設した。開設当初から24時間365日、この名張地域の二次救急を担ってきた。医師不足が具現化してきたため、対策として岡波総合病院・上野市民病院・名張市立病院の3病院による輪番制度を平成20年4月から始めたが、平成22年8月には2次救急ができない「空白の日」ができてしまった。医師確保を最重要課題とし、大学病院へ派遣の依頼をしたり、県からは地域医療再生基金を利用して大学との寄付講座を開設し、医師を派遣してもらった。古くなった機器の更新を行ったり、医師の給料を上げてもらうことを市に働きかけた。医師の処遇面を改善し、魅力ある職場づくりをおこなった結果、医師不足も今では改善された。現在、研修医も入れて約40名の医師がいる。一昨年には地域医療支援病院の指定を受けており、昨年8月には災害拠点病院に指定され、ますます地域の中核病院として頑張っていこうと考えている。

テーマ1 (地域医療について) 医師

県や大学等から医師確保のために協力いただいて感謝している。この地域は、人口10万人あたりにして三重でもっとも医師の数ない地域であるので、これからも県の協力を得て医師確保を継続させ、この地域の医療を盛り立てていきたいと考えている。

ひとりの小児科医として、この地域で幼い命を助けることはとても光栄に思っている。今月の20日に365日の小児救急医療がスタートするが、今後は名張だけではなく伊賀の患者も増えると予測している。今後も精進して、わずかな力であるが地域医療の役に立てるように頑張っていきたいと考えている。

救急外来で勤務しているが、軽傷の方も救急外来に来ることがあり、重症患者と混ざっていることが問題だ。そのために、地域の方々と話し合う機会を作り、講習会を積極的に行うなどすれば、住民の認識も変わる。そうすれば、軽傷患者の救急利用が減り、いわゆる「コンビニ受診」が少なくなるのではないかと思っている。病院関係者の負担も減り、少ない資源の中でうまく回していけるのではと思うが、できれば医療関係者の数が増えることが一番いいと思っている。

〔知事の発言〕

医師確保については、名張市立病院において努力していただいており感謝している。三重県では地域医療センターを作って、三重県内で医師をやっていくこと、研修を受けていくことで、医師としてのキャリアアップをしていくんだという環境づくりをしていくことを一昨年からスタートさせた。各病院から協力いただいて、そういう土壌を三重県の中で作っていこうと取組を始めた。医師の修学資金は中長期のことを見据えて作りながら、また当面の課題ということで、医師確保の特効薬はないが、バディホスピタルシステムなどを組み合わせて、地道な努力を現場のみなさんの意見を聞きながら進めていく。

自分も小さな子どもを持つ親として、小児科医の先生から「幼い命を助けることが光栄である」とのお話を聞いて心強く思うし嬉しくも思う。小児救急医療がスタートすると色々な課題が見えてくるので、市長なり私に言っていただけたらサポートさせていただきたい。

三重県でも救急の利用のうち半分の50%は軽症患者の方というデータがある。救急の適正利用キャンペーンで県民のみなさんに啓発し、本当に救急で救わなければいけない命のために去年からキャンペーンをスタートさせたところであり、今後も県民のみなさんにキャンペーンを継続させていただく。同時にキャンペーンの時に医療従事者の方への感謝の「ありがとう」を書く手紙もいっしょにイベントでやった。自分達が命を救っていただいている方への感謝や思いを馳せることによって、結果的に「コンビニ受診的なもの」は少なくなると思う。地元住民との対話をしていくことなどは我々も協力させていただきたい。

テーマ1（地域医療について）看護師

この病院では2次救急医療機関も担っているが高齢者の方が多い。病棟勤務で、高齢者の方がスムーズに在宅に向けて生活できる環境ができるように、日々、看護をしている。地域医療は地域との連携がものすごく重要である。また、看護師は地域との連携においてとても重要な役割があると思う。在宅介護に向けて、ケアマ

ネージャーとケースカンファレンスを行いながら、地域連携室を通して地域との病院と連絡を取り合ったり、患者さんの現在の状況や患者さんの生活について、細かく伝えるように相談しながら行っている。小児救急がスタートする中で、知識、技術面が必要だと思うし、不安もあるが頑張っで対応していきたい。

内科に勤務している。高齢者が多い中で、退院調整が困難な状況になってきている。過去には看護師が入院から退院まで退院調整を行ってきたが、ソーシャルワーカーが入ってから、ワーカーとドクターと看護師が行っている。ソーシャルワーカーひとりが病棟を把握することは難しいと思っている。内科病棟では週1回、ドクターとナースとリハビリの担当と栄養士とで話し合いを行っており、患者の調整とか状況把握を行っている。

外来、救急外来に勤務し、内視鏡やカテーテルを担当している。救急で運ばれてきた患者の最期をどう迎えるのかを考える。施設ではなく、最期は自宅で迎えたいが、自宅へ訪問して見届けてあげる医師がない。名張市は高齢者が多い中、看取るためだけに自宅から病院にみえる患者がいる。運ばれて死亡確認だけという場合もある。地域医療として往診をしていただける先生が増えたらいいと思う。

〔知事の発言〕

三重県も昨年からスタートさせた保健医療計画でにおいて在宅を一つの柱にする中で、地域との連携は不可欠であり注力することが2つある。一つ目は多職種のたくさんの関係者の人達をどういう体制づくりをしていくかということで、「地域の体制づくり」のために啓発などの手伝いをしていくことが上げられる。もうひとつは「在宅医療での意義」ということで、色んなことを医師会や関係者に知ってもらうなど患者側、医師側などの両方が意識を高め在宅医療の重要性、体制づくりを考えていく啓発みたいなものを県として力を入れていく。「在宅医療」は基礎自治体が行うことが基本だと思っているので、県は体制をつくるのではなく、地域で「在宅医療」を組める体制を応援していくのが仕事だと思っている。県民全体の「在宅医療」の啓発を行っている。ご意見はこれからの体制づくり、啓発の中で反映していきたい。地域での体制づくりはそう簡単ではないが、頑張っで取り組んでいきたい。

テーマ1（地域医療について）臨床検査技師

病理検査を担当しており、自分は診断に使う標本を作成している。診断は病理医がしており、当病院では一週間に一回だけ来る非常勤医師しかいない。三重県では慢性的に病理医師が不足している。全国的にも同様であるが、標本づくりでミスをするともた一週間延びてしまうことがある。プレッシャーもある。もう少しスムーズな診断が行えないかと考えている。遠隔病理診断などに保険が適用になり将来的に導入していけば、早く措置が必要な患者さんは助かる。緊急の場合は三重大学へ依頼することもある。三重大のような大きな病院は非常勤ではなく常勤の病理医がいるので、診断もスムーズである。

〔知事の発言〕

現状は病理医が不足していることなどが問題なのだと思うので、遠隔病理診断等のことも少し勉強してみる。

テーマ1 (地域医療について) 栄養士

管理栄養士をやっている。入院患者の栄養状態の把握や入院後の栄養治療の管理、外来患者の栄養治療に携わっている。仕事をして日々感じることは、当病院には患者で低栄養の方が多く見受けられる。食べ物は豊富にある時代なのに、当院とか大きな病院には栄養士が配置されるけど、まち医者にはいないケースがほとんどである。患者の容態を良くするには、栄養は非常に重要なものである。過剰栄養の患者もおり、小さなお子さんでも血圧が高い例もある。栄養管理は大きな病院に来て始めるのではなく、行政や地域のスタッフの方と協力して取り組まなければならないものだと感じている。

栄養に関しての知識が不足しているために生活習慣病などが増えていることもあると思う。地域でまず、栄養に関する知識を普及することが重要である。

〔知事の発言〕

そのような事を知る機会を行政でも広げていけばいいと思う。知る機会が十分ではないと思う。また、自分の中で健康に対して関心を高め意識するということが大切である。

テーマ2 (ワーク・ライフ・バランスについて) 医師

ワーク・ライフ・バランスの視点から言うと、津に自宅があるため単身赴任で名張へ来て医師をやっている。食生活が不規則になりやすい欠点はある。自分自身でも規則正しく行っており、今の生活に満足している。こういう風にしてほしいなどは今のところはない。

妻は日本人であり大阪で働いている。名張でも病棟勤務や休日の待機などがあり、今日も待機の状態である。ほとんど、名張にいるようなもので、病院とともに生活の拠点もここ名張にある。最初から夫婦別居の状態であり、仕事も大事であるし、家庭も大事である。最近妻も名張へ来てくれることもあり、朝早く来て、夜遅く帰っていく。妻も仕事があり大変なので、自分も自分のことは日々、頑張っている。仕事は大変だが、患者さんやその家族からの感謝の手紙をいただくことがあり、それがとても嬉しいことである。できれば、名張の地域医療に携わりたいので、長く名張にいたい。家のこともきっちりとして、夫婦円満にしていきたい。

3カ月ちょっとになる娘がいる。妻は千葉県出身であり、回りに知り合いも誰もいない状態である。妻の実家も遠いということもあり頼れる人がいない。自分も研修医1年目なので、病院から帰りが遅くなったりもする。時間があれば、自分自身の勉強もしなくてはいけないので、子育ての手伝いができない状態である。そのへんをどうしていったらいいのか考えている。自分としてできることを最低限やることを心がけている。風呂の掃除ぐらいしか手助けできない。男親としてうまくやっていける方法を教えてほしい。

〔知事の発言〕

夫婦円満にさせていただくためにも、是非、奥さんに三重へ来ていただいて、三重の人口を増やしていただきたい。

何とかしなくてはいけないなど、子育ての対応の想いを持ってやっていただいている。奥さんと話し合ってお互いのやることを決めておくことが大事である。過

剰な期待や不満感を持つことが良くない。自分の場合は、妻から「第2ママはいらない。父親しかできないことをやってほしい。」と言われている。2人で決めることが大事なこと。お母さんが精神的に安定している方が良い。名張市では子育て支援に力を入れており、一度、相談することも検討していただけたらどうか。今年の6月にファザーリングジャパンの男性の育児参加などの全国大会を三重で行う。その後、育児に参画する男性の育児ネットワークみたいなものを県内に作っていかうと思っているので、先輩パパに聞いてもらうなどがいいかもしれない。男は教えたがりである。いっしょに入ってもらって仲間入りしていただくと思う。

テーマ2 (ワーク・ライフ・バランスについて) 看護師

以前兵庫県に住んでいた。結婚し出産を機に名張に来たが、自然も豊かで子どもを育てるには良い環境である。母も一緒に来たので、家事、育児を助けてもらい、とてもありがたい。女性が仕事をするうえでは、育児・家事において家族の理解がとても必要だということを実感している。自分自身がすべてかぶるのではなく、できることをやっていかうという気持ちも必要である。今は2人の子どもも高校生になり手はかからなくなった。子どもが小さい時は申し訳ないなという気持ちもあり、託児所に預けたこともあった。今、子育てしている職員もたくさんいる中で、病気等で急に休まなければいけなくなることもあるので、看護師の人員確保もお願いしたい。また、看護師が気兼ねなく育児も仕事もできる環境を作してほしい。

2歳半の子どもと今年5月に2人目を出産予定である。今はフルで働いていて託児所を利用している。子どもが病気になった時はスタッフの協力を得て対応している。夫の親が近くに住んでいるので、親に協力してもらいながら仕事も続けているが、仕事が定時に終わらない場合もある。託児所を利用している職員も多く、対応の職員も不足していると聞いている。2人目の子どもを出産するにあたり、託児所の拡充をお願いしたい。

以前は正規職員で勤務していたが子どもができた時に臨時職員(パート)に変更した。勤務は定時退社になったので、家族と過ごす時間がいっぱいとれるようになったことが「いいな」と思える。しかし、仕事の内容は正規職員と同じでも、報酬や保障はどうかということも考える。子どもが小さい時は臨時職員でいいと思っている。子どもが大きくなったら正規職員に戻りたいが、年齢(45歳)制限があるところもある。正規職員は子どもが病気の時でも休みにくい状況だと感じるが病児保育が名張市はないので、あってもいいかなと思う。個人的には、子どもがしんどい時こそ母親がそばにいてあげるほうがいいと思っている。

できれば小児救急が始まるので看護師さんの数を増やしていただけるとありがたい。

〔知事の発言〕

私の家も妻の母親に世話になっている。家族の理解や職場の理解が重要であり、うしろめたい、休みにくい気持ちにならないような職場の理解があらためて大切なことであると感じた。来年度4月からは、企業とか団体とか組織において、ま

わりの方々がワーク・ライフ・バランスを考えたり、マタニティハラスメントがないようにしていく研修とか啓発の活動に力を入れていこうと思っている。2009年に育児介護休業法が改正されてから、休みにくい雰囲気があるとか、休んではいけないと言われてたりするなど本来なら法律違反となる企業等が全国的に多いので、それを知ってもらって啓発活動を実施していく。また、病院内で、短時間の勤務であるとか、ワーク・ライフ・バランスを確保できる体制を各病院でやっていただくときの補助などは、平成24年度から実施している。子どもと市民の命を守っている方々が、一番身近な家族の関係でしんどい思いをすることがないように、職場環境の改善というところでも県としても力を入れているところである。病児保育としては、県内で15箇所あるが来年度は3箇所増やしたい。どの地域にするかは検討中である。少しずつであるが増やしていきたい。

看護師の確保については、言っていたとおりのりだと思うので、我々も一生懸命頑張りたい。

潜在看護師が三重県にもたくさんいる中で、少しでもと思って貢献していただくことはありがたい。そういう方が増えていく、働き方の柔軟性を確保し、キャリアの不安を取り除いていくような環境づくりを県として一生懸命やっていきたい。また、現場の声を聞かせていただきたい。

テーマ2 (ワーク・ライフ・バランスについて) 臨床検査技師

私も2歳7ヶ月の子どもがいる。できる限り育児に協力している。妻も働いているので、なるべくおむつを替えたり、お風呂に入れたり、寝かしたりすることは助け合いながらやっている。仕事は当直業務がある時は24時間寝られないこともある。当直明けの次の日は仕事なので体力がいる。日々、体力の向上をするようにしている。

【知事の発言】

母親の精神の安定が一番大事だと思うので、そういうために、男は何ができるかを考え続けた方がよいと思う。

テーマ2 (ワーク・ライフ・バランスについて) 栄養士

この病院に勤務して16年目になる。スタッフが長く職場に勤められるのは、職場の環境とか、結婚とか出産の調整もあるが、この病院に勤めたいというスタッフ間のいい信頼関係、垣根のないドクターやスタッフの信頼関係があるからだと感じている。

【知事の発言】

長く、働き続ける職場は魅力的である。そのためにはスタッフ間の信頼関係が大事だと私も思っている。そういう職場が三重県でも1つでも増えるように頑張っていきたい。

まとめ【知事の発言】

名張市立病院の皆さんにおいては、すべての職種の皆さんが一丸となって、名張市民や伊賀地域の方々や近隣の奈良県の方々の人の命を守っていただいているこ

とを心から感謝申し上げたい。私が知事に就任した平成23年4月以降も名張市立病院は進化を遂げており、素晴らしい取組を行ってくれている。平成24年には地域医療支援病院に認定され、地域のかかりつけ医と連携してもらっている。また、昨年8月には災害拠点病院の指定も受けていただいた。その備えという意味では、すべての職種の皆さんにご苦勞をかけているが、市民の方々を守るために頑張っている皆さんに敬意を表したい。

昨年度から名張市が先行して取り組んでいただいている「在宅医療」は、県としても保健医療計画の中で大きな柱として位置づけている中で、名張市立病院は懸命に取り組んでいただいている。また、新たな取組としては小児救急医療センターを24時間、365日やっていこうと頑張ってくれていることに感謝したい。医療に携わる皆さんとお話をさせていただくと、いつも思うことは、医療従事者の方々の気持ち、想いに甘えていると思って、いつも反省させられている。強い想いを持って、自らの生活や時間を犠牲にしながら頑張っている気持ちや心に甘えきってはいかんなどと思っている。医療、皆さんの職場環境を良くしていくことについては、「制度」と「風土」の両方が大事だと思っている。仕組み的な「制度」を整えるということと、「風土」では、救急車の適正な利用の話もそうであるが、職場の中で子どもが風邪になった時などの「風土」など両方が大事だと思っている。そういう観点でこれから県としても、どういう「制度」を構築していくのか、また、どういう「風土」を皆さんと作っていくのか、改めて、今後、県の医療政策の中で生かしていきたいと思う。



【「名張市立病院に勤務する医療関係者」の皆さん】

「名張市立病院に勤務する医療関係者」は、日夜、医療の最前線で働き頑張っている皆さんです。